

# 第41回全国大会 ～再び戦争と暗黒政治を許すな～ 今こそ同盟の真価を発揮すべき時！



6月19・20日の二日間、東京の全労連会館において第41回国賠同盟の全国大会が開催されました。岩手からは田中館安子事務局長と對馬範彦常任理事が参加しました。2万人の同盟の目標には達していませんが、「戦争する国づくりを許さない」と「再び戦争と暗黒政治を許すな」を旗印に掲げる国賠同盟の活動に改めて確信を持つ活発な議論が交わされました。要点を報告します。

## 会長挨拶 吉田万三

第41回大会は2025年の治安維持法が施行されて100年の節目を前にした大会である。

### 1. 情勢の問題

自民党が裏金問題で支持率が低下、一方で大軍拡・戦争国家へ着々と進められているのを見ていく必要がある。

### 2. 同盟の活動

「再び戦争と暗黒政治を許さない」を大きな柱とする。

治安維持法犠牲者の「謝罪・賠償・名誉回復」をもう一つの大きな柱と掲げている。これは私たちにしかできない活動である。



発行所  
治安維持法犠牲者  
国家賠償要求同盟  
〒113-0034東京都文京区  
湯島2-4-2全労連会館  
国賠同盟岩手県本部  
〒020-0013盛岡市愛宕町  
17-4 牛山靖夫方  
T/F 019-623-8648

▼第41回大会報告 会長挨拶 来賓挨拶 発言から  
まとめ 感想 對馬範彦・田中館安子 ▼女  
川原発再稼働反対ツアーに参加して 釜石市・深  
澤秋子 盛岡市・虫壁みよ ▼今三閉伊一揆に学ぶ  
栗石町・小峰耕希 盛岡市・伊藤未来

## 一寸一言

武器がなかった縄文時代

念願の国宝の土偶「縄文のビーナス」と「仮面の女神」に逢ってきた。長野県の茅野尖石（と

がりいし）縄文考古館にいます。高さは30センチ弱、妊婦を思わせる女性によく磨かれしかり立っていた▼館内には見事な縄文式土器に混じり練習用に作ったと思われる非対称や厚みが均一でないへたくそな土器や矢じりも展示されていた。また土器を修復して使ったと思われる痕跡もあり、縄文人の暮らしに思いをはせた▼三内丸山遺跡からは人を殺す武器は出土しておらず、弱者をケアした痕跡があるという。富と権力が集中することを回避した縄文時代は1万年も続き平和で豊かな芸術を残した▼続く弥生時代から現代に至るまでの2400年は、収奪と搾取、殺戮の上に存在してきた。戦争はなくならず貧富の格差は広がるばかり：飽くなき利潤を追及する資本主義をどう乗り越えるか。縄文時代に戻ることはできないが、その豊かな精神を引き継ぎ、皆が共存する未来社会を私たちの手で築きたいと願う。（D）

## 治安維持法とは何か

—戦争をする国にしないために—

学習テキスト

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟  
2024年6月

## 来賓挨拶

日本共産党

山添 拓 参院議員

国政の状況は、あたかも100年前治安維持法がつくられた時代に逆戻りするような状況である。今国会での特定秘密保護法、戦闘機の輸出、自衛隊と米軍が一体化、地方自治法の改正等が国民の理解を得ることも、十分な審議を尽くされることもなく、十分な説明もできないままに押し通された。が、岸田政権はボロボロになっている。ここまで追いつめてきた。治安維持法犠牲者の多くの先輩たちが求めてきた平和と民主主義、人権が尊重される社会に変えるために今が頑張り時である。

来年は治安維持法から100年、100年前の多くの先輩の闘いがあった、現憲法のもとでの社会がある、私たちが頑張ることので次の100年をつくっていくことになる。頑張ろう。

自由法曹団

山添 健之 事務局長

安倍政権による集団的自衛権の容認を引き継いだ、岸田政権により安倍軍拡を越える大軍拡が推し進められている。財源として東日本大震災の復興のための国民負担の一部、社会保障費、公立病院機構の積み立てを軍事費にあてるといふやり方は、国

新しく作られた学習テキスト「治安維持法とは何か」戦争をする国にしないために」を活用し、幅広い人々への理解を広げる学習を同盟活動として続ける。



民生活より軍事を優先する政権の姿勢であり許すことは出来ない。大軍拡と並行して行われている「戦争する国づくり」の悪法の数々も許すことは出来ない。

自由法曹団改憲対策本部は、本年3月台湾を訪問し人権研究者団体との意見交流を行った。台湾は国際的研究機関が発表している民主主義指数のランキングでアジア1位。台湾の民主主義は、戦後国民党の蒋介石・蔣経国政権による40年にわたる戒厳令、白色テロと言われる共産党に親和的と判断される人民への徹底した弾圧、処罰、処刑といった歴史に対して真摯な反省と政府による被害回復の試みがあつて初めて成立している民主主義であることを学んだ。日本政府の戦前の人権侵害に対する態度とは全く異なる態度を取っている。

戦後の日本政治は、批判的報道、戦争を中心とした戦前の暗黒政治への反省、弾圧被害者への謝罪・賠償、そして弾圧を指導した指導者たちの責任追及が行われることがない異常体制である。自公政権中心の異常な体制が共謀罪の制定、戦争法の制定など「戦争する国づくり」加速の根本であることは明らか。今日本に必要なことは、戦前の戦争加害、弾圧の真相を調査し被害回復に務めるとともに、憲法9条を守り活かし、平和を願う世界の人々と連帯して、あらゆる分野で市民の命と暮らし、人権が尊重される社会をつくることである。国賠同盟の活動の中心に据えられている弾圧犠牲者への謝罪と国家賠償、名誉回復を求める活動はこのことを再現するものにほかならない。その価値はこれまで以上に高まっている。共に闘う。

記念講演「治安維持法公布100年と日本国憲法

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟 顧問 渡辺治

(一橋大学名誉教授)

次号に掲載します。

# 発言から

## 【情勢について】

沖縄 県議選で自民陣営は基地問題に触れず、暮らしの困難の責任を玉城デニー知事にすりつけて激しい共産党攻撃を行った。

台湾有事に備え、九州各県と山口県への空路での避難計画を策定中。対馬丸事件を想起させる。

大阪 万博は開催まで10カ月を切ったがチケットは売れず、子どもたちの動員が懸念される。中止を求め続ける。

高知 政府は有事に備え全国16の港と空港を「特定利用空港・港湾」に指定。高知県では「高知・須崎・宿毛」の3港が対象となった。国追隨の姿勢に30代の元自衛隊員の若者も怒りの行動に立ち上がっている。

石川 能登地震、全国の支援に感謝。奥能登支部6人の所在が分からず生きた心地がしなかった。救援活動の中で十数名を拡大した。国の復興の在り方に怒りを感じている。

東京 美濃部革新都政の誕生後、太平洋ベルト地帯に革新都政が誕生した。蓮舫知事の誕生で革新都政を実現させる。

山口 安倍晋三氏の県民葬を違憲とする裁判闘争中。

宮城 松島の自衛隊基地で米軍との合同演習が行われている。岡山 県営岡山飛行場を自衛隊に使わせ、戦闘機4機配備。

自衛隊日本原駐屯地を米沖縄海兵隊が使用。

島根 衆議院補選で亀井亜紀子氏が当選。潮目を変えたのは自民党支持の女性たちの変化。当たり前の市民生活が大事。

（亀井氏は、国賠署名について犠牲者がいなくなるので賠償は求められない、と署名は返された）

## 【拡大について】

県独自に春と秋に拡大月間を設定して目標達成に挑戦（埼玉）



## \*役員・役員（理事）会

役員は自らの責務として一人5名の会員拡大をしよう、そうでないと指導できない。役員は活動歴、個性が違う。長所を認め合って団結する、これが一番。（北海道）

情勢との関係で、同盟を強く大きくする意義を常に語り合うことが大切。会議の最初に「治安維持法と現代」巻頭論文の学習を30分行う。（新潟）

組織を大きくするには、目的・姿勢が不可欠（静岡）

## \*映画運動が力になる

・真昼の暗黒、時代を撃て多喜二、武器なき斗い、鶴彬心の軌跡、米軍が最も恐れた男カメジロー不屈の生涯、種まく人々、抵抗の群像、そびゆるマスト等、戦争に関する映画などを2〜3か月1回、チラシを作って呼びかける。10人前後の参加者でも感想を交流。見るたびに発見がある。

（長崎・愛知・神奈川・兵庫・千葉・静岡 外）  
・わが青春つきるとも伊藤千代子の生涯／上映会を通して（北海道・愛知・大分・島根・山梨・長野・千葉 外）

## \*支部活動・支部の建設

・3人いれば支部ができる。毎月第2金、土、日を支部づくり行動日に設定し幹部を先頭に奮闘する。（埼玉）

・まず班をつくり支部に昇格させる。同盟に入って班長になることをお願いする。支部が頑張れば元気が出る。（北海道）

・支部を確立することと増やすことを主体的に追及し、幅広い人々へ働きかける。（新潟）

・①国賠同盟の名前を知ってもらう。

・②どんなことをやろうとしている団体か知ってもらう。

・③歴史を学び、治安維持法のあった時代を想像し、今やれることは何かを考える機会をつくってもらう。（愛知）

・スタンディング・ウォーキング・講演会等、会員が楽しく取

り組める活動が連動して拡大につながる。学習が大切、役員はいつもカバンに入会のしおりと、署名用紙をいれて歩き、署名をしてもらい入会を訴える。

(千葉)

・若い人にどう働きかけるか、わが子に治安維持法を語る、民青同盟との連携が大事。

(神奈川・千葉)

### 【署名・宣伝活動】

・毎月集約し、到達を確認する。翌月の集会を洗い出し、団体の了承を得たうえで集会の入り口前で国賠のゼッケンをつけて署名活動をしている。

(千葉)

・点在9人から88人の支部となる。対話を通じて平和の世論をつくろうと、ウクライナ侵略から毎月6・9のつく日、月6回ほぼ一人で163回宣伝。

(新潟)

・「戦争をさせない埼玉の会」「希望の楽団」としてハーモニカを演奏して、悪政し放題の自公維に対する怒りの宣伝行動をしている。

(埼玉)

・署名は増やしたが取り組む人は2・3割にとどまっている。署名に賛同してくれる人は拡大対象者であり、署名は同盟活動の原点である。

(北海道)

### 【犠牲者がいない同盟活動】

・山形は県役員会で話し合った結果、活動内容を変える必要はない。やることは同じで名称もこのままでよい。ただ犠牲者がいなくなった時、第3者が賠償請求できるかが問題になる懸念があると確認した。

学習テキスト「治安維持法とは何か」P12には「『世界各国でも、それぞれの国で戦時の弾圧犠牲者の勇敢なたたかいを後世に引き継ぐ活動が進められています。世界のうう勢は戦時の賠償権を2世、3世の遺族が相続するのが一般的な流

れになっています。私たち日本の治安維持法同盟もそういう方向で対応していきたいと考えています」とあり、これが中央本部の答えであると納得した。

(山形)

・子や孫に語っていくとともに、自分のこととして捉えられるように現在の名称の16文字に人権にかかわる文言を入れたい。

(静岡)

### 【治安維持法施行100年をどう迎えるか】

・今年99年、独裁的に悪法を次々と押し付ける政権に対し、平和と自由を求めて集まり語り合うことがますます重要である。100年目をどう迎えるか、中央としての行動提起がない。より深く学んで大きな行動を起こすべきである。

(徳島)

### 討論のまとめ

永島民男 新事務局長

1. 44本27都道府県の発言（43都道府県中16県発言なし）

2. 全国の闘いを反映して多彩で感動的な発言が多かった。

女性の発言が多く12名が発言した。

支部活動の発言が目立った。支部をただ単に大きくするだけでなく、千代子の映画活動をとおして、DVDを見ながら、学習会をとおしてなど、しつかり支部の活動を企画し支部が前に出るにより拡大につながっている。

2年前の大会から今大会まで11の支部が結成、再開された。次の42回大会までいくつの支部をつくるか目標をもつことが大事、その決意を各県にもちかえり議論してほしい。

3. 記念講演を聞き、充実感・満足感が頭の中を支配している。

次々と弾圧立法が成立させられ、気持ちも意欲も小さく低くなる戦後79年であったが、同時に平和憲法のもと戦争をしなかった79年間である。私たちの運動が戦争をさせなかったことに確信を持ち、今こそたたかいを強くするときであると

いう渡辺先生の力強い発言は全同盟員に伝えるべきである。  
この会場で交流会を行い、満足できる大宴会となった。

来年の治安維持法施行100年をどう迎えるか、救援会、民医連、国賠同盟の3団体で準備会をもつ予定である。これに自由法曹団、民青を加え5団体が幹事団体となり多くの団体に呼びかけ準備を進めている。来年4月東京シビックホールで開催の予定である。

署名用紙の前文について議論を進める。

最後に「岸田自公政権の『戦争する国づくり』に反対し、市民と立憲野党の共闘による政権樹立を目指す決議」と「蓮舫都知事誕生に全国の支援を!! 裏金政治の自民政治にノー、大企業の都心再開発!! 小池都政をチェンジ! くらしと平和へ東京から発信を」の2つの決議を採択して第41回大会を終了した。

## 感想

対馬 範彦

私より先輩と思われる方々の多さ、その方々の元氣、明るさに目を奪われるとともに、今までの国賠同盟への考え方が大きく変わった。

戦後79年「戦争と暗黒の政治を許さなかった」その一因として、多くの市民運動、9条の会は勿論、国賠同盟もその一翼を担ってきたことに感動を覚えた。治安維持法犠牲者への謝罪・国家賠償・名誉回復を政府に要求し続け署名活動を展開してきたが、治安維持法犠牲者がいなくなったら我々の活動はどうなるのか、そのことがいつも心の片隅にあり不安さえ感じていた。今大会、同盟の活動として「再び戦争と暗黒の政治を許さない」を大きな柱の一つとして掲げた。これまでのモヤモヤを払拭し治安維持法施行100年を前にさらなる前進をめざし頑張りたい。

3回目の参加で3つのことばが心に残りました。

「同盟活動は政治闘争である」ということばと渡辺治さんの記念講演の「戦争をさせなかった平和憲法の79年」ということば、山形の白根沢澄子会長の「同盟活動が楽しくて仕方がない」ということばです。自分の同盟活動への向かい方、目指すところについて考えさせられました。

来年の中央理事会では発言できるように頑張ります。

## お詫びと訂正

前月5月15日号の「一枚の写真より」の2P上段10行目「写真」は、1965年岩手の民青が全国大会で表彰されたときのもの」となっていますが、正しくは、「1965年岩手の民青が全国大会で表彰され解放旗が奥本豊県委員長に渡されたときのもの」でした。

下段9行目の「革新の立場」は「変革の立場」の誤りでした。重大な間違いでした。深くお詫びして訂正いたします。

## 二十歳の青年と母が同盟に加入しました

山宣の「武器なき闘い」上映会との三開伊一揆の学習会にもお誘いした20歳の青年とその母が、同盟に加入したいと申し出てくれました。前向きに学び行動する姿勢に力をもらいました。

## 訃報

牛山フミさん 6月27日 81歳 盛岡市

ご冥福をお祈りいたします。



# 女川原発再稼働ストップ

5月25日（土）県生協連・消団連主催の女川原発再稼働反対視察ツアーが行われました。33人の参加者で同盟員の皆さんも多数参加していました。

3時間のバスの車中で女川原発の構造と震災時の事故について学習しました。「原発の危険から住民の生命と財産を守る会」の高野博さんと多々良哲さんの案内で原発PRセンターを見学し、その後「まちなか交流館」で懇談しました。高野さんたち住民運動の指摘で海底を4M掘り下げた事で津波の害を免れたことに驚き、女川原発の再稼働は大変危険であることがよく分かりました。

釜石の深澤秋子さんと盛岡の虫壁みよさんに感想を寄せていただきました。

## 女川原発再稼働ストップ視察ツアー参加 不屈のたたかいここにあり

釜石市 深澤秋子

3・11の福島第一原発事故から、13年が経過した今でも故郷に戻ることが出来ない人々が大勢います。自然が破壊され、元に戻るには長い年月を要します。原発事故の悲惨さは経験した者にしかわからない、想像を絶するものです。だから私達には同じことを繰り返してはならないことが求められているのです。

5月25日、かねてから一度は訪れたいと思っていた女川原発視察に、生協連、消団連企画のツアーに盛岡、一関、宮古、山田の方々と共に参加することができました。参加者は33人で往

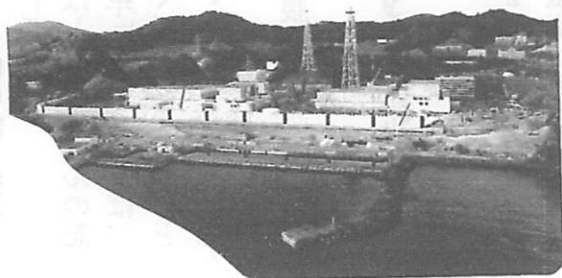
きのバスの車内では、女川原発の予習が行われました。大震災時14メートルの津波が押し寄せ、そこへの到達はわずか80センチで止まったことにより紙一重で大事故を免れたことや、東北電力は、女川原発2号機の再稼働に向け安全対策工事を6月には完了させて9月頃に再稼働することを表明していること、3・11で事故を起こした福島原発と同じ型であること、運転開始から30年を経過した老朽原発であること、など再稼働に伴う危険性について学習しました。

女川原発では、元女川町議の高野さんと市民団体の多々良さんから、これまでの反原発住民運動の経過や現況等詳しく説明していただきました。高野さんは26歳の時（現80歳位）教員を辞めて反原発の共産党議員として立候補し、2019年に引退するまで、長きにわたって原発から住民の安全安心について、粘り強く取り組み、幾多の困難も乗り越え住民運動も支えてきました。まさに「不屈ここにありけり」です。

全国で原発を断念させた地域が26カ所あります。住民投票などで反対が多数を占めて断念させたとところもあり、住民のなかで多数派をとることが大事だと高野さんは言います。

原子力ムラは、自民党などに巨額の政治資金を流しこみ、その見返りに原発優遇政策を進めてきました。しかし今、金権腐敗政治に国民が厳しい審判を下そうとしています。

政治転換の歴史的チャンスの時、孫子の代まで平和で原発ゼロの社会実現



に向け、あらためて頑張ろうと決意したツアーとなりました。  
ありがとうございます。

## 女川原発再稼働反対の行動を！

盛岡市 虫壁みよ

都南9条の会が生協連に声をかけ全面協力でこの企画が実施されたことを知りました。

バスで片道3時間、原発について学習をしながら現地女川に到着しました。現地では高野氏と多々良氏が出迎えて下さり、原発を撮影禁止のガラス越しで案内してくれました。

結論は今年9月から政府の指示で再稼働が予定されているが水素爆発の危険があり非常に危険。なぜなら、

#1 施設全体が30年を経過しておりあちらこちらに老朽化がみられる。

#2 福島原発と同じ仕組みで循環型とは違う古い型、更に福島島の原発の爆発の原因がまだ究明されていないまま再稼働を始めている。

#3 福島島の原発から放射能が漏れた時に女川原発もパイプラインにヒビが200か所も入り危険な状態であった。修理して再稼働しようとしているが水素爆発の可能性あり非常に危険。

このような危険な状況にあるのに何故強行するのか、原子力規制委員会と東北電力は人間の生命を軽く見ています。福島の人々が故郷に戻れない状況をなぜ再び宮城にも拡大しようとしているのか疑問です。

毎月11日昼13時から、盛岡の歴史文化会館からスタートしクローズテラスまで原発反対のデモ行進を続けています。さらに夕方にも毎月2回(第1・3金曜)実施しています。

## 9.11 女川原発再稼働反対 緊急アクション

夕方の予定 詳細は検討中

主催：さようなら原発

岩手県集会実行委員会

7月7日は女川町でも原発反対の大規模なデモ行進が行われます。声を上げ行動することで再稼働を止めましょう。

\*\*\*\*\*

県生協連の主催で7月7日「女川原発再稼働を考える女川現地講演集会のオンライン試聴会」が開催され、『原発ゼロで生きる方法』と題する青木美希さんの講演を試聴しました。

1月1日の能登半島地震による志賀原発の被害状況と北陸電力、原子力規制委員会や国・自治体の対応について、現地取材したことが語られました。原発ありきのずさんなやり方に改めて憤りを感じました。再稼働反対の声を大きく上げましょう。

## 今こそ

## 三閉伊一揆に学ぶ

牛山靖夫会長熱く語る 学習会に24名参加

6月29日(土)午後、盛岡市中央公民館に於いて県同盟主催の学習会を開催しました。直前の27日早朝、牛山会長の奥様のフミさんが急逝され、学習会は中止もやむを得ないと考えましたが、牛山会長の強い意志で予定通り実施しました。

胆江支部の菅原栄美さんが「牛山さんこそ不屈の人だ」と言いましたが、まさに不屈の精神で熱く語っていただきました。

## 三閉伊一揆 参考図書

「一揆の奔流

～南部三閉伊一揆の民間伝承～」

佐々木京一 著

「安家村俊作

～三閉伊一揆の民衆像～」

茶谷十六 著

「畠山多助の生涯」

武田功 著

「三閉伊一揆手引草」

牛山靖夫 著

「幻の老人 切牛の万六」

早坂基 著

これらの本は、いわて労連会議室の

「小〇文庫」に収められています。

他に鶴彬関連の本等もあります。

貸し出します。是非ご利用下さい。

牛山靖夫会長はテキスト『治安維持法と現代』に掲載された研究報告をもとに参考図書も提示されて長年の研究成果を縦横無尽に語ってくださいました。参加された皆さんからは、「面白かった!」「息をするのも忘れる感じで集中して聞いた」「他県の出身なので岩手にこんなすごい闘いがあったことを全く知らなかった」「やっぱり組織的なチームがあったればこそ、『統一戦線』のイメージが今日の話で浮かび上がったように思えた。若い皆さんとも、もっと学び合う機会を作りたい」と大変好評でした。感想を紹介します。

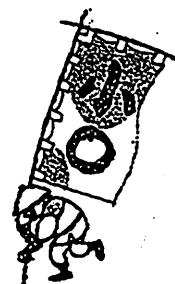
「『小〇の旗』を掲げて勝利した

三閉伊一揆170周年」を読んで

栗石町 小峰耕希

私が最も関心を惹かれたのは、当時の人々が重税への不満を

どのように政治行動へと転化していったのかということ。〃仙台領まで1万人規模の行進〃を組織するなどは至難の業です。一揆の指導者が処刑される弾圧もあつたし、一揆を成功させることが簡単ではなかったからこそ三閉伊一揆が語り継がれているのだらうと思います。三閉伊地方での貨幣経済の発達や、一揆の年は飢饉ではなく、無秩序の反乱・暴動とはいえないこと、責任を問うべき相手は誰か、どこへ請願を持ち込むか、要求事項は何かといった作戦を緻密に準備し、結束して行動していたこと、それらを可能にした教養や知識を当時の「お百姓さん」たちがどのように身につけていったのかなど、多面的に知る必要があるようです。



民青ではいま、青年の間に急速に広がっている「政治的模索」を、自民党政治を終わらせる「巨大なうねり」へと変化させるために運動しています。岩手の先人たちの偉業は、庶民が要求を自覚して立ち上がり、「巨大なうねり」へと発展したときのパワーの大きさを私たちに教えてくれているようです。

三閉伊一揆については、本当に何も知識がありませんでした。ペリー来航の幕末期に2度に渡って大きな1万人規模の一揆があったことにまず驚きました。現代とは違い遠く昔のこのような考えでいきましたが、170年前とはいえ明治維新まで15年という年代はまさに近代であり、時代劇とは全く異なる世界であると感じました。「百姓」とは身分であつて職業ではないというのも初めて知りました。興味深いです。野田村に塾が2つもあり文化的なレベルも高かったとのこと、現地へ行き学んでみたいと思いました。

盛岡市 伊藤未来